

「メディアツアーを実施」

9月18日から21日、現地メディア向けに開発協力案件現場を紹介するメディアツアーを実施し、新聞・テレビ11社16名のジャーナリストとカメラマンが参加しました。このメディアツアーは、日本の開発協力が現地メディアで取り上げられる機会を増やし、スリランカの政府関係者、知識層およびスリランカ国民への情報発信を強化するためのものです。

スリランカは国際的連結性・域内連結性の向上と農業生産性の向上を通じた輸出促進による経済成長を目指しており、メディア一行は、同コンセプトの礎にある日本の質の高いインフラ整備の事例である有償資金協力事業「コロombo港開発事業」、「ケラニ河新橋建設事業」、「南部高速建設事業」、無償資金協力事業「高速道路・道路交通情報提供システム」等を視察しました。また、スリランカ南部には特に多くの貧困世帯が存在することから、同世帯を支援する技術協力事業「後発地域における生産・販売促進プロジェクト」、また国際労働機関（ILO）を通じた児童労働の撲滅に係る啓発事業「プランテーションにおける児童労働に係る社会的保護」の視察・ヒアリングを行いました。

1日目は、大使館へ集合し、各視察案件についてブリーフィングを実施。翌日からの視察に備えました。

2日目は、まずバスでコロombo港に移動。1980年代から累次に亘るコロombo港の拡張・改良に係る日本の支援について説明を受けました。普段は記者の皆さんも立ち入れない場所なだけに、熱心に取材を行いました。港湾局職員からの説明の中でも、1980年代に我が国の支援したコンテナターミナルが現在でも稼働している様子を示しつつ、「日本の支援の特徴は持続可能性である。今後想定される港湾開発事業においても、日本からの更なる支援を希望する」との話があったのが印象的でした。



1980年代に日本が支援したコンテナターミナルの説明を受ける一行

次に、ケラニ河新橋建設事業の視察。政治・経済の中心地コロンボと隣町のケラニアを隔てるケラニ河には、我が国の支援で建設したケラニ橋がありますが、その便利さから近年は交通量が増加し、非常な渋滞を招いています。そこでケラニ河に新橋を建設し渋滞緩和を図る「ケラニ河新橋建設事業」を視察しました。すでに用地確保は済んでおり、後は建設事業を残すのみ。生活に直結する事業だけに、熱心な取材が続きました。



プロジェクトマネージャーから説明を受ける一行



ケラニ新橋建設予定地を視察する一行

続いて、南部高速建設事業及び高速道路・道路交通情報提供システムの視察。同高速の道路交通指令センターを訪問し、同高速道路、高速道路・道路交通情報提供システムに関する説明を受けました。南部高速道路はスリランカ初の高速道路建設事業である点、同高速道路の建設により南部からコロンボへの輸送に係る所要時間は半減したこと、また道路交通情報システムの導入により、重大な事故の発生が防がれている点が強調されました。



南部高速建設事業及び道路交通情報センターの視察を行う一行

3日目は、貧困世帯支援の視察。まずは、特に貧困層の多いハンバントタ県の農家にパッションフルーツ栽培技術の技術協力を行っている案件の視察。メディアに取り上げられる機会も滅多にないそうで、農家の方も一生懸命に受け答えしていました。記者も貴重な取材機会とあって、取材に力が入っていました。



パッションフルーツ農家のインタビュー



パッションフルーツ農家と一行の集合写真

続いて、農家が利用するかんがい施設の整備の視察。地方の農村が抱える死活的に重要な問題は、水の確保であるとの説明に、利用者の顔が思い浮かびます。



かんがい施設の整備の視察をする一行

午後はラトゥナプラへ移動し、プランテーションにおける児童労働撲滅に係る普及啓発活動に関し、ヒアリング。貧しい世帯では、子どもは学校に通うよりも労働を通じて所得を得ることが求められる傾向にあります。我が国は、そういった状況を改善すべく、ILOが行う啓発活動の支援を通じて児童労働の撲滅に貢献してきました。この事業の結果、ラトゥナプラ県での茶産業プランテーション（フォーマルセクター）における児童労働はほぼ解消されました。世界的な成功事例であることから、他の国による児童労働撲滅に係る支援においても同スキームが応用されているそうです。

活発な質疑応答とインタビューから、関心の高さが伺えました。



活発な質問をする一行



インタビューを受ける ILO の担当者

4日目はコロンボへ帰還。道中、日本食レストランにて、はしの使い方を学びつつ日本食を堪能。日本文化を楽しく学びました。



はしの使い方を学び、ポーズを取る記者たち

メディアツアー終了後に実施したアンケートでは、生活に密着するインフラ支援の重要性がよく理解できた、持続可能性の高い日本のインフラ整備の実態がよく分かった、最貧困地域に対する日本の支援の実態がよく分かったというコメントが寄せられました。

また、パッションフルーツ農家に対する技術協力を紹介する記事、コロンボ港、ケラニ河新橋、南部高速など質の高いインフラを中心に我が国の多様な支援を紹介する記事などが複数紙で一面を使って記述されるなど、早速に大々的な記事が掲載されています。

我が国の開発協力事業に対する、スリランカ国民の理解もより一層深まったのではないかと思います。